

特別寄稿(論説)



変革期の学校と教育課程経営の課題

国立教育研究所企画調整部連絡協力室長 高階 玲 治

変わる教育のパラダイム

わが国において、1980年代から今日まで様々な教育改革が提案され続けている。周知のように、第13期中央教育審議会、臨時教育審議会、教育課程審議会、そして再び第14期中央教育審議会、大学審議会などである。こう並べてみると、ここ10数年は「教育改革の時代」として大きなエポックを形成してきたと言えるであろう。さらに、教育改革の提案内容を検討すると、これまでの教育とは違う姿が浮かび上がってくる。その姿はまさにパラダイム(モデル、枠組み)の変革と言えるものである。

そこで、「これまでの教育」と「これからの教育」をイメージ化してみると次の図のようになる。但し、これは単純ではない。様々な教育課題が錯綜し、複合化しているからである。

そして、極めて重視すべきことは次のことである。つまり、「これからの教育」のイメージは、数年前までは教育課題として存在していても、その解決はまだまだ手の届かない感じのものであった。たとえ解決できそうであっても、部分的あるいは断片的であって、学校教育の総体としてのイメージがしにくかった。それがようやく身近な課題として、解決可能なあるいは実現可

図1 学校教育の変革

これまでの教育	これからの教育
①国としての教育課程編成基準の重視	各学校で編成する教育課程の重視
②義務教育や高校までに完結する国民教育	生涯学習の基礎としての学校教育
③効率化を求める画一的な教育	学習の多様化による個性を生かす教育
④教師主導による教育	自己教育力の育成重視
⑤知識偏重の教育	知・徳・体の基礎・基本の徹底
⑥情報受容型の教育	情報活用能力の育成重視
⑦同質性のみを受容	異質性・異文化の積極的受容
⑧一元的評価と序列化	多元的評価による個の可能性の伸長
⑨決められたスペースの教室	オープンで柔軟に組織できる学習の場
⑩閉システムとしての学校	開かれた学校の推進